



# Chocolate 通信

2012 8月号

夏の日  
の歌  
中原 中也  
青い空は動かない  
雲片一つあるでない  
夏の真昼の静かには  
タールの光も清くなる

K'mio talks

## 自分一人で歌ってみる、という事

合宿はお疲れさまでした。音取りも全て終わりましたし、後は本番に向けて内容を濃くしていく、という作業ですね。音も取れましたので、一人でできる作業として、決して大きな声でなくても良いので、自分一人で歌ってみる、という事もやってみてください。案外皆と一緒に歌っていると、歌えている気持ちになって、微妙に音程が違っていたり、それからニュアンスが適当だったりします。特に日本語の歌は、一文字一文字のニュアンスを考えて表現しないと、正しく伝わりません。美空ひばりの曲のように、皆が知っている、と思うと結構それが落とし穴になって、伝わらない事も多々あります。一人で歌ってみると、私が普段練習で言っている事が、どういふことかを実感できる部分も多々あると思います。それから自分の声がどのように出ているかも確認できます。オリンピック選手に倣って、少しでも多くの時間を音楽に割いてください。

佐々木 団長の 断腸の思い

## 正確な音程

合唱において音程 = ピッチを正確に歌うことは基本ですが、実は大変難しいと実感しています。間違った音を歌うのはそれ以前の話ですが、正しい音程と思って歌っていても、わずかに低く先生から指摘されたり、後で録音を聞いてみるとズレていたりします。音程が合わない原因は色々ですが、まずは自分の声をよく聞きピアノや周りの人の声と比べながら確認すること。特に発声練習のときに先生に習った発声方法(正しい姿勢、喉を開ける、正しいブレス)で常に音の高低や響きを確認しながら修正します。曲の中では、特に高い音程が下がり気味になりやすいですが、それは余計な力が入り、正しい形が崩れているから。狙った音を歌う形が頭の中でイメージできれば正しく歌えるはず。正しい音程を目指して頑張りましょう。



コンサートのチラシが出来ました!



## わたしの先生

### 《雪持ちの竹のごとくあれ》

先日、小学校の同窓会があった。渋谷区幡代小学校6年6組。皆まで53年ぶりに校歌を唄った。そして恩師の顔を思いだした。先生の最後の言葉は、雪持ちの竹のごとく どんなに苦しい時にでもしなやかにたわむ、そしてやり過ぎた後はなお一層強く逞しい己れと成り人生に立ち向って行く。又3年生から6年生の卒業までクラスは変わらず一緒に学んだ稀に見る仲のよい子供達である。~と書いて有つたのだ。私は15人の旧友に会って、互いを励まし、そして恩師の心が皆なの奥深くに息づいて居る事を実感したのです。亡き神山先生の教えこそ私自身の拠り所だと思います。真、善、美、そして愛こそ人生に最も大切にしたい言葉だと教えて頂きました。

清水 幸子(ソプラノ)



註：雪持ちの竹=雪をかぶって折れそうな竹が、春になり雪がとけると、立ち上がって元に戻る様子から、じっと耐えた後に強く成長してゆく様に喩えられる。



SOPRANO 阿部 紀世

## 耳を澄まし、声の高さを予測

卓球の愛ちゃんは20年かけて世界のレベルに達しました。ショコラは2月から新曲に取り組んでいます。個人の歌の経験は様々で長い人は10年にも。

啄木の不協和音が快感となるのは耳に馴染み、あとは時間の問題でしょう。ショコラは本番に強いと言われていますが、歌を愛し、お酒を好み、人を愛するショコラは歌にも現れていると思います。天才と言われたひばりは楽譜が読めなかったけれど人前で歌う時はあの素晴らしい声で人に涙と感動を与えました。

ソプラノは合唱の要ですが高音が多いです。余裕をもって心地良く聞こえるには自分の声に耳を澄まし、声の高さを予測し、喉に力を入れず頭の前から抜けるように出してみましょう。最高の仲間と共に歌える喜びを託して良いものを作りあげましょう。



TENOR 佐々木 晋

## まずは早く暗譜

合宿を終えて、演奏会向けの曲の全体像が見えてきました。まずは早く2冊を暗譜してしまいたいものです。先生がいつも言われていますが、暗譜してからが始まり。自信を持って歌えばテノールは声質がそろっていますので、全体のハーモニーを輝かしくすることに役買えるでしょう。啄木は難関ですが、歌うほどに味わい深い曲ですので、独特な世界を好きになってしまうのが上手く歌う秘訣ではないでしょうか。

### 編集後記 2012.8.16

♪ “さびしいカシの木”は、アカペラ・コーラス・セレクションという企画のために木下牧子さんがアカペラ版に書き下ろした物。同じタイトルの歌が、昭和47年NHK『みんなの歌』で放送されヒットしたことを知る人はいるだろうか? ポニージャックスのトップテナー西脇さんが《やなせたかしコンサート》のため、子供用フォークソングのつもりでこの曲を書き、自らのソロでギター・弾き語りで発表したものだそうだ。当時はフォークソングブーム。どこか懐かしい感じがしたのも頷けた。(三葉)

♪ 所属しているリコーダーアンサンブルが保育園で演奏した。フィナーレは「アンパンマンマーチ」。演奏に合わせて子供たちが歌う。 なんのためにうまれて なにをしていきるのか... 。歳だけは充分大人の自分でさえきちんと答えられない問い。それを子供たちが素直な声で無邪気に歌っている。津波で流されたきみだって、虐待されて逝ったきみだって、生きていて歌いたかったよね。 そうだ うれしいんだ いきるよろこび って...。

詩人・やなせ たかしの深さ。いまごろ気づいた私の傲慢。 蝉時雨、盛んな日に。(kobo)



ALTO 金成 素子

## うたをうたうとき

まど・みちおさんの詩は、平易な言葉で、それまで誰も気付かなかったことを教えてくれます。この「うたをうたうとき」も読めば読むほど、なるほどその通りだなあとたくさんの方に気付かされます。「うたをうたうとき わたしは からだをぬぎます」歌声はもちろん私たちの身体を通り抜けて出ていくものですが、重いこの身体からでも、軽やかに広がっていくものです。特に「からだをぬぐ」という表現は魂が抜け出るような不思議な気分になります。魂は「こころ」のことでしょうか。「うた」は「こころ」で歌う。それだけでなく「こころ」は歌声よりも早く聴く人のところに届き「うた」を迎えてくれる。なんて素敵なのだろうと思います。むしの音コンサートに向けて、今よりもっと素晴らしい「うた」と「こころ」を聴く人に届けられるようにがんばりましょう!



BASS 古川 智久

## 練習時間の使い分けを

合宿はほとんど参加できず申し訳ありませんでしたが、合唱団全体としては、集中して練習できる環境のもとで、実力を底上げできたとともに、親睦を深め結束を高める機会になったと思います。ここから1ヶ月半は、団として演奏の質を高めていくことと、暗譜という自分との戦いを両立させながら練習していくことが大切になってくると思います。最低限の音取りや暗譜といったところは一人ひとりの時間を活用して練習し、パート内の声を合わせたり、パート同士のバランスやハーモニーを高めていくことに木曜日の練習時間を使っていけるようになれば、残り少ない練習時間でも驚くような成長が出来るはず。まだ自分自身も音や暗譜は不安な点だらけですが、不安を不安のままにせず、一つ一つ克服して、最高の演奏を目指しましょう!

